

教科目名 電気機器工学Ⅱ (Electric Machinery & Apparatus Ⅱ)

学科名・学年 : 電気電子工学科 4年 (教育プログラム 第1学年 ◎科目)
 単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 授業時間46.5時間)
 担当教官 : 後藤 智行

授業の概要

3年生次の電気機器工学Ⅰに引き続き、特に産業界で多く用いられている交流機器について学ぶ。この講座では発電機や、電動機の動作原理やその特性について学ぶ。特に3年生次に学んだ直流機器から前述したように、実社会での利用が多い交流機器について、実際に産業界で多く用いられている誘導機と同期機について、その運転原理はもとより産業界での位置付け等も学ぶ。時間的に余裕が出来れば、交流と直流とのエネルギーの相互変換の為のコンバータやインバータ等の基礎も学ぶ。

達成目標との評価方法

大分高専目標 (B2), JABEE目標 (d 1④) (g)

- (1) 誘導器産業界で多く用いられている機器だけに、その動作原理、構造、特性等をよく理解し、等価回路等から電圧・電流・トルク特性等が算出出来ること。(定期試験, 課題レポート)
 (2) 実際の産業界において使われている応用事例の理解が出来、将来より発展的に応用可能な理解力を修得すること。(定期試験, 課題レポート)
 (3) 本校は第2種電気主任技術者の認定校になっているので、そのレベルの問題解決が出来る能力を養うこと。(定期試験, 課題レポート)

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己
1	第5章 誘導機 5.1 誘導電動機の原理	○誘導電動機の原理と開発の歴史、回転磁界の発生	【理解の度合い】
2	5.2 誘導電動機の構造	○誘導機の種類、巻線形・籠形誘導電動機	
3, 4	5.3 固定子巻線と起磁力	○集中巻・分布巻・分布短節の場合の起磁力等	
5~7	5.4 多相誘導電動機の理論と等価回路	○二次誘導起電力・二次電流・等価回路・特性等	
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説 5.5 多相誘導電動機の特	○速度・出力・力率・効率・比例推移等	【理解の度合い】
10~12	5.6 多相誘導電動機の運転	○各種誘導電動機の始動法・逆転・速度制御法等	
13	5.7 単相誘導電動機	○単相誘導電動機の原理と特性等について	
14	5.8 特殊誘導機	○誘導発電機・二相サーボモータ等	
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16~17	5.9 誘導電動機の円線図	○誘導電動機の円線図について	【理解の度合い】
18	第4章 同期機 4.1 同期発電機の原理ならびに電機子巻線と誘導起電力	○交流起電力の発生・極数と回転数と周波数の関係・起電力等	
19, 20	4.2 同期発電機の構造と特性	○水車・タービン・エンジン発電機	
21, 22	4.3 同期機の励磁方式と並列運転	○電機子反作用・ベクトル図・負荷角・特性曲線・電圧変動率等	
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説		【理解の度合い】
25, 26	4.5 同期電動機の特	○同期電動機の原理・特性	
27	4.6 シーケンス制御の基礎	○同期電動機の始動法・乱調・安定度等	
28, 29	4.7 シーケンス制御の応用実	○シーケンス制御の基礎的事項について	
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	本講座の内容は、多くの関連分野があるので、本講座の個々の内容の理解に止まるのではなく、出来るだけ他分野との関連についての視点を養ってほしい。		【総合達成度】
教科書	野中作太郎, 電気機器 (Ⅰ), (Ⅱ) 森北出版		
参考図書	坪島茂彦, 図解誘導電動機 東京電気大学出版局 他 参考図書多数		
自学上の注意	インターネットで電気機器に関する技術の最新情報を入手しておくこと。		
関連科目	電気機器工学Ⅰ, パワーエレクトロニクス, 制御工学Ⅰ, 発電機工学, 送配電工学, 高電圧工学, 電気設計, システム工学, 電気法規		
総合評価	達成目標 (1) ~ (3) について、4回の定期試験と課題レポートで評価する。 総合評価 = (4回の定期試験の単純平均) × 0.7 + 課題レポート × 0.3 総合評価が60点以上を合格とする。なお、特別な理由以外は再試験を行わない。		【総合評価】 点